

シリーズ

ごみの資源化施設の建設に関する意見交換会

草の根 レポート ③ 2月26日 於て 町田市役所本庁

*はじめに

町田市の諮問を受け、2009年6月から2011年3月にかけて『廃棄物減量など推進審議会』（会長 細見正明氏）が開かれ10年後の町田市のごみ処理のあり方について答申を出した。答申の基本理念は「町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とし、徹底したごみの減量・資源化を図りつつ持続可能で環境負荷の少ない都市を目指すこととしている。具体的には、2009年度ごみとして処理している9万9千tを2020年までに6万tに減らす計画で、ごみとして処理する量の40%を削減することになる。また、現状の資源化率27%を54%に進めることとなる。この答申をうけ、市は2011年4月『町田市一般廃棄物資源化基本計画』を策定した。この『町田市一般廃棄物資源化基本計画』をもとに2011年5月、『町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会』（委員長 細見正明氏）が発足。2020年度に新たなごみの資源化施設を稼働することを目指した検討が始まっている。この間の検討内容を、市民と意見交換し今後の検討に反映するため、意見交換会が始まっている。

*町田市役所本庁で出された市民意見の概要

- 委員はどのような基準で選ばれているのか○ごみゼロ市民会議以降進歩が無い○意見を言えといわれても判らない○委員の基準がわからないと意見の書きようが無い
- ここにいる委員は施設建設の推進派か○どういう権限で座っているのか○自治会や町内会に入っていない人は意見や発言する権利は無いのか○広報まちだは見えていない。広報をみてわかる人はいない○委員は前回の意見交換会の折、自己紹介でまるまる町内会の会長をしているといった。組織の名前をいうのなら、組織の総意であるべきどうやって、委員を選んだのか。
- 生活上必要な施設だと思うが、近隣に出来るとなると悪臭・騒音・有害物・地価の下落といった生活への悪影響が予想される
- 地域住民への最大の配慮として生産されるエネルギーを地域住民に優先的にまわす制度にしてほしい
- リサイクル文化センターの建替えのスケジュールは？
- 大型メタン化施設の建設に疑問。大きな都市でうまく言っていないと聴く。実証実験してほしい。その情報を開示してほしい
- 大きなメタン化施設を一つ作るのではなく旧五カ町村に一つずつメタン化施設をつくればいい
- モデル地域を公募してメタン化についての実証実験をしたらどうか
- 建設候補地を市境から100メートル以内はのぞくとあるが、他市はぎりぎりの所に立てている。○本日の説明会に専門家がない。おかしい。委員長の名前でチラシがきているのに、礼儀が無い。
- 鶴見川クリーンセンターはすでに施設がある
- 三輪地域は里山の指定があるのにエリアに入っているのはおかしい

○委員会の構成メンバーを公にしてほしい

○生ごみ 300 トンの堆肥化の目標はかなりハードルが高いのでは。大型生ごみ処理機の現状と今後の計画は？

○財政窮乏の折、処理施設に新たに費用を投入してその費用の回収の計画が見えない。技術的に確立していない資源化施設の導入には疑問。費用対効果を示せ

○建設費について、国の交付金を当てにする時代ではない。町田市は町田市のお金ですべき。相模原が理想。みんな燃やしている。プラもみんな燃やせばいい。市民の負担がすくない。煙突から出る排ガスも町田よりいいのであれば焼却炉だけ換えればいい

○ごみの資源化施設は自分の隣にきたら困ると誰もが思っていると思う。どの処理施設もやめて、永久に使うつもりで小さな規模の焼却施設をつくれればいい。「作らない・燃やさな・埋め立てない」はまったくの平行線。啓蒙活動も見えない。費用をかけずにごみの減量はできる。そんな研究すべき

○ストーカ炉になると何基になるのか。流動焼却炉からストーカ炉に換える理由は？

○新しい焼却炉・ストーカ炉だといくら、流動焼却炉だといくらといった比較できる資料を出してほしい

○広報やチラシで市民に知らせていると言っても市からの情報は流れていない。私の地元町内会は流していない

○焼却炉は今あるところに立て替えるのか?そのように聞こえる。施設建設に、有料ゴミ袋の基金のお金は使わないのか？

○プラスチックを燃やすところが無いのか?今プラスチックはどうしているのか?実際に燃やしているのか?私はペットボトルは可燃ごみの袋に入れている。前は分けていたが結局燃やしていると聞いたので…

○市民は混乱する。緑の袋に入れているもの、燃やせないごみは鉄とか取り除いた後は燃やしている。私は 10 年前に知って驚いた。市は、もっときめ細かに周知をしないとイケない

*** 混乱した意見交換会という印象だった。何のための意見交換会なのか・・・がわかっている人が少なく、最初から「文句」を言う状態。特定の委員への個人攻撃とも取れる発言、委員を御用市民とばかりに決め付ける発言は、行政と市民との協働作業の壁となる**

*** 町田が抱えるごみ問題、ごみの現状が共通の認識となっていない。9 万 9 千トンのごみをどう処理していくのか?長い間手付かずだった問題、プラスチックごみ、生ごみをどう処理していくのか?「判らないから、いえない」と言うのではなく、まず説明を聞き、そのうえで質問すると言う姿勢が大事だと思う**

*** 「ペットボトルを可燃袋に入れている。市は何をしているんだ!」という発言に対して、「市がもっと周知の努力を」と言う市民の発言。町内会長をしている委員が「私は毎週資源の分別に取り組んでいるが、まったく取り組まない所もある。市に周知をと言う意見、もっともだとは思いますが、市民が努力しなければ何も進まないと思う」という発言はずばり確信を突く。ごみ問題は誰かが解決してくれることではない。市民の主体性が問われている**

*** 資源化なんかするより全て燃やせばいいという意見、施設建設は自分のところはいやだという意見、ごみ処理施設が集中する地元・小山田の住民の苦悩はつづく・・・**

*** せつかくの意見交換会である。評論家的な意見でなく、現実を見据えた建設的な意見・質問が少なかったのは残念だった**